

記者発表（資料配布）		本紙を含めA4：3枚	
月／日（曜日）	担当部課名	電話番号	発表者名 （担当者名）
令和5年4月25日（火） 午後3時00分	情報政策課 広報室	0790-82-0690	

令和5年全国広報コンクール 「広報さよう」が二部門で入選

日ごろから本町の広報活動にご協力いただきありがとうございます。

全国の市町村が令和4年中（1～12月）に発行・発表した各種広報媒体（広報紙・写真・映像作品）のうちから、優秀な作品を選び表彰する「令和5年全国広報コンクール」の各部門入賞作品が決定し、本町が広報紙（町村部）と広報写真（一枚写真部）の二部門で入選しましたのでお知らせします。

記

1. 受賞作品のあらまし

（1）広報紙（町村部） 読売新聞社賞、入選2席

受賞したのは、JR西日本の県内ローカル線の収支状況の公表により、深刻な赤字路線のひとつと示された「姫新線」の置かれている状況を町民に再度知ってもらい、これまでの思い出やなくなった未来を考えてもらうきっかけとなるように特集した「広報さよう」令和4年12月号です。

（2）広報写真（一枚写真部） 入選

町が運営する昆虫館が実施した「いどうこんちゅうかん」での1枚。（令和4年7月号表紙）佐用町は田舎でありながら、昔より外で遊ぶ機会が減り、昆虫に触れることも少なくなりました。そこで、ゲームや動画ばかり見るインドアの遊びだけではなく、外で遊ぶことで昆虫などに触れ合えるなど「新しい発見」があることを町民に伝えたいと思い撮影した作品です。



▼広報さよう
令和4年12月号



▼広報さよう
令和4年7月号



次ページ（審査結果）

2. 審査結果の詳細

(1) 主催

公益社団法人 日本広報協会

(2) 審査結果

・ 広報紙（町村部）

特 選	川俣町（福島県）	2022年12月号	※総務大臣賞
入選1席	川根本町（静岡県）	2022年3月号	※BS よしもと賞
入選2席	佐用町（兵庫県）	2022年12月号	※読売新聞社賞
入選3席	菰野町（三重県）	2022年9月号	
入 選	朝日町（山形県）	2022年7月号	
入 選	ときがわ町（埼玉県）	2022年12月号	
入 選	山中湖村（山梨県）	2022年8月号	
入 選	有田川町（和歌山県）	2022年10月号	
入 選	西粟倉村（岡山県）	2022年5月号	

・ 広報写真（一枚写真部）

特 選	見附市（新潟県）	2022年7月号・表紙	※総務大臣賞
入選1席	霧島市（鹿児島県）	2022年6月号・14～15ページ	
入選2席	八幡浜市（愛媛県）	2022年10月号・表紙	
入選3席	長門市（山口県）	2022年8月号・表紙	※読売新聞社賞
入 選	佐用町（兵庫県）	2022年7月号・表紙	
入 選	東通村（青森県）	2022年2月号・表紙	
入 選	平泉町（岩手県）	2022年6月号・2～3ページ	
入 選	大仙市（秋田県）	2022年12月号・表紙	
入 選	川口市（埼玉県）	2022年8月号・表紙	
入 選	御前崎市（静岡県）	2022年10月号・表紙	
入 選	摂津市（大阪府）	2022年8月号・表紙	
入 選	宮若市（福岡県）	2022年6月号・表紙	

次ページ（審査講評）

(3) 審査講評

・ 広報紙（町村部） 入選 2 席「広報さよう 12 月号」

特集の姫新線とイベント記事で全体の半分以上を占め、読み物中心の構成となっている。町の人に読み物で楽しんでもらおうという意図が見える。鉄道記事は一般の人にも楽しく読めるような内容だが、すでに廃線になった他地域の状況をレポートすることで、廃線の危機感を伝える展開になっている。JR が発表した収支状況で、町を走る姫新線も深刻な赤字路線であることが示された。「廃線の危機は感じるが、何をしたらいいのかわからない」という声が多いことを受け、企画された。利用者数の推移など、エビデンスとなる具体的な数値を交え、ロジカルにストーリーを展開し、住民の意識・行動の変容をうながす企画構成になっている。地元鉄道が維持されるかどうかは地域の大きな問題であり、国の政策・議論とともに報道もされているが、地元の視点が深く掘り下げられた点に意味があり、今まさに重要な特集であったと感じる。広報誌では経営の現状と予算もわかりやすく紹介し、「私たちにとって」の路線をどうしていきたいかを皆で考えるきっかけの場となった。給食のお味噌汁コンテストに関する記事は少しほっこりする。

・ 広報写真（一枚写真部） 入選「広報さよう 7 月号」表紙

こどものアップ、昆虫目線がじつに愛らしい一枚。今にも飛び立ちそうで撮っている側もハラハラしそうである。スマートフォンでの撮影。いまや、A4 判の表紙に使えなくもない解像度も装備してきたので、今後増えてくるかもしれない。屋内のイベント撮影で、人混みなどの制約もあったと想像するが、スマホの手軽さ・機動性もあり、表紙写真として成立させることができた。画像全体のぼかし具合をみると多分、背景のぼかし効果を調整したのだろう。その効果で、読者の視線を子どもの目線とトノサマバッタに集中させている。昆虫と少年のキラキラとした瞳が印象的な写真だ。スマートフォンでの撮影は身近な分、大きなカメラより警戒心もなくなり、子どもたちの素早い動きなどにも対応しやすいため、こうしたイベントでは大活躍する。広角レンズが搭載されたスマートフォンは歪みやすいが、適切な距離感でポートレートモードを上手に活かしている。

3. 受賞歴（過去の全国広報コンクール）

・ 広報紙（町村部）

平成 21 年 入選 2 席
平成 23 年 特選、総務大臣賞
平成 24 年 入選
平成 26 年 入選 2 席、読売新聞社賞

・ 広報写真（一枚写真部）

初出品初入選

4. その他

6 月 23 日（金）に栃木県栃木市で開催される「第 60 回全国広報広聴研究大会」で授賞式が行われます。

報道解禁日は、4 月 28 日（金）朝 6 時以降の解禁です。（新聞は朝刊）